

# がんばろう 南三陸町

復興第 31 号

# 南三陸マイタウン月刊情報

発行所

千葉総合印刷株式会社

本吉郡南三陸町志津川字沼田 150-84  
TEL(46) 3069 FAX(46)3068

志津川広報センター

企画・編集 千葉伸孝

## 志津川地区町づくり協議「輝くみらいづくり部会」参加報告⑤

志津川まち協が次のステップへ

### 第 1 回「輝くみらいづくり部会」開催



「志津川地区まちづくり協議会」から、新しく設置された「輝くみらいづくり部会」の第一回目の会議が、8月21日(木)午後6時30分から役場大会議室で開催された。新しい委員20名の自己紹介があり、佐藤伸治部会長(本浜)が議長をつとめ、協議事項のワークショップをおこなった。会議では市街地の限氏のランドデザインについ



て議論した。八幡川の親水性を意識し「階段設置」があり、それが図で示された4カ所で、形・場所に関して委員から多くの提案が出された。

新しい志津川市街地は来町者の「回遊性」を重視し、限られた場所に車を止め、町内を散策する街づくりを計画する。高台からの町民には巡回バスの運行もあるが、市街地も歩く事を求められ、観光客も同じで歩いて志津川地区の新しく生まれた町を見てもらう。ワークショップでの昔のような生活をの要望もあり「会社の帰りに車で店に横づけし買い物ができるように道路を広げては」などの提案があった。新しく生まれ変わっても以前のような店・人とのつながりの環境をとの願いがある。

### 八幡川の河川堤防について

①中橋の復活を

(仮称) 新中橋の再整備

②長く幅の広い親水空間のある遊歩道の整備

イベントの開催できるしつらえ

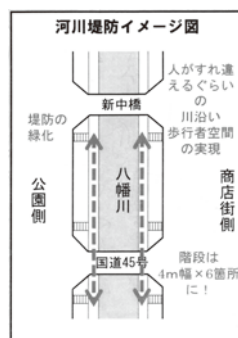
③親水空間への階段の設置

45号線を囲むように4ヶ所

新中橋(仮称)の海側2ヶ所

④緑面積堤防にできるよう

コンクリート堤防から、緑面堤防の可能なしつらえ



### 志津川市街地

### 防災集団移転事業アンケート まとまる。

土地希望の半数以上が購入を希望した。購入 197 世帯 (56.2%) 借地は 153 世帯 (43.7%) の意向を示した。

・移転意向は東区 154 中央区 135 西区 70 の合計が 359 世帯。

・旧行政区・親族・友人などグループ入居希望が 3 団地 103 世帯あった。

・100 坪希望が 271 世帯 (77.2%)、70 ～ 90 坪が 53 世帯 (15%)。

・店舗付住宅希望が 62 世帯 (18%) で、飲食店・菓子店・理容店・事務所などがあった。

・地価は坪あたり

東 区が 約 5.6 万～ 6.3 万円で  
借地が 66 ～ 74 円中央区が 約 5.3 万～ 6.0 万円で  
借地が 62 ～ 70 円西 区が 約 5 万～ 5.6 万円で  
借地が 58 ～ 66 円

6 月掲載記事より

### 平成26年度

### 東大阪支部 宮城県工組本吉・気仙沼支部交流会

東大阪支部 支部長 永谷嘉次

平成26年7月5日(土)・6日(日)2日間にかけて東大阪支部有志による「印刷復興支援隊」は昨年6月総会に引き続き復興支援の大役を背負い再び東北は南三陸へと…。

松島を経て南三陸町に入り、津波が押し寄せて来ることを最後まで住民にスピーカーで呼び掛けて津波に巻き込まれ殉職された遠藤未希さんを初め43名の職員が犠牲になられた防災庁舎を訪れ、多くの方が手を合わせるなか私達も慰霊いたしました。

この防災庁舎の保存については国・県・町の行政の考え方又被災された遺族の感情などで様々な意見があり撤去か保存かはまだ決まってないようです。以前訪れた時に地元テレビのインタビューにも応え私は保存すべきだと訴えました。

50年100年先の後世にこの災害を風化させることなく語り継ぐことが生き延びた人々の使命かと思ひます。この遺構を観光の名所にするのは不謹慎であり、異論もありますが、過疎化の進む中、南三陸町のシンボルとして街づくり・村おこしとし、出来るならば防災庁舎のそばに慰霊塔を設け、祈念公園等に整備されたらと思ひます。19年前におこった阪神淡路大地震におきましても淡路島に記念館が建てられいつでも見学することが出来ます。全国から多くの方々が来られ犠牲になられた方の霊を慰めてくれるであろうかと思ひます。

この場所で再度、千葉様と合流、南三陸町の被災状況、復興工事の現状、住民と行政との考え方のズレ話して頂きました。徐々に復興は進んではきていますが住民が満足できる復興への道のりは遠いのかな…と思いつつ。今晚お世話になる「民宿 コクボ荘」へと車を走らせました。この民宿のオーナーもすべて津波で流失、再度、民宿を立ち上げた苦労話も聞きながら地元名産を使った豪華海鮮料理をおいしく頂き、又千葉様とは被災の現状・宮城県印刷業界の現状など情報交換など行

い大変有意義な懇親会でありました。

この民宿の女将(三浦省子)さんは全財産を失ったようにはとも思えず、



明るく振舞っていただき私達のなかに入ってお話をしていただき楽しい時間をすごせました。次回の訪問時にも是非この民宿で泊まりたいと思っています。

翌朝、遠藤未希さんのご両親が7月2日にオープンされたばかりの民宿「未希の家」を訪問、この民宿は決してビジネスでなく震災後お世話になったお礼の意味とお嬢さんの望みを込めて未希の家と名づけられたとのこと。お線香も上げさせて頂きお話を聞き貴重な時間を過ごしました。その後千葉様の現在の再建された会社・自宅、以前の流された自宅や会社の跡地、津波破壊の防波堤の姿など案内して頂きました、その後、支部が8月に主催する夏のイベント・ビアパーティでのお楽しみ抽選会に使う名産物を買ひ地元志津川を支援して行こうと思ひ、1軒目「かね久」2軒目・3軒目はさんさん商店街の「千葉のり店」「及善蒲鉾店」それぞれの店でお値打ち価格にて商品を購入しました。購入することも観光することも復興支援になればと思ひています。

昼食は行列もできて「松原食堂」で今が旬の「うに丼」を頂き、甘さもあり新鮮で大変おいしく腹一杯に満足しました。

その後、児童が74人犠牲になった石巻市の北上川沿いの大川小学校跡を慰霊し、女川町・石巻市を巡って仙台空港より大阪に帰阪しました。



### 7月14・15日

### 2年目となる長野県「飯島町マジック」

### 仮設で笑顔の交流

被災地の仮設生活者支援に、物資の支援が2年続き、3年目から物資とひと時の癒しと、マジッククラブの皆さんの交流支援をおこなった。仮設集会所からは笑いと拍手と会話での交流があった。

戸倉中仮設には30分遅れの開催ながら、皆さんは不平も言わず待っていてくれた。

物資・歌謡・交流などはあるが「マジック」は無いと言う。子供たちが、不思議な目の前の手品に、一心不乱に見つめる姿に、受け皿として来町者支援の意義を感じる。

昨日は夕方に南三陸町に到着し「未希の家」への4人の宿泊を案内し、時間が遅くれたにも関わらず、おばあさんが震災当時の荒砥の津波の事を教えてくれた。8人の「焼香」のお願いを快く受け入れてくれた。翌日、「未希の家」では宿泊した長野からの4人にハッピーを着てもらい新装の宿前で記念写真に応じてくれた。その後で「防災庁舎」に線香を手向け、2日目の志中のマジックショーに臨んだ。集会所には35名余りが集まり、自治会長さんの気配りにより盛会にマジックショー終えた。

終了後には皆さんとの記念写真となり、集まった全ての方がフレームに入り笑顔で答えてくれた。少しの憩いのひとときとなり、癒し安らぎの時になった。

お昼はさんさん商店街で、キラキラ丼の「うに丼」に舌鼓、お土産もここで買い求めた。ここから入谷を通り「三陸道」に乗り、一路長野県への帰路に付いた。無事に9時間30分の安着を祈った。





# 未来への教訓

大津波の記憶を風化させない

平成26年(2014年)

6月の出来事

～地元報道より～

◇歌津皿貝の国道45号で、ボランティアの男性(51才)が交通事故で死亡。被災後南三陸町に入り、伊里前地区で商店・子供たちの支援をおこなっていた(5月31日)

◇被災企業の成長戦略を考える「未来創造フォーラム」が開催され、気仙沼市南三陸町の関係者120人が集まった。

◆心一つに市民運動会(気仙沼市階上)

◇「南三陸おらほの酒づくり」では新米プロジェクトを、戸倉寺浜の休耕田を活用し、地域おこしとして若手が田植えをおこなった。

◇南三陸町25年度独自支援実施状況がまとまった。利子補給などの交付決定が224件で登米市などの町外での自主再建などが2割に上った。隣接の登米市には37世帯となり、50件余りが新たな生活地を南三陸町の外に選んだ。

◇戸倉の生コンプラント供用開始が2カ月遅れ、6月中旬に。



◇入谷に「いきがいサポートセンター(仮称)」建設へ。高齢者の雇用や交流拠点として建設される。NPO法人の資金の補助6千万円を掛け、入谷地区の建築業者を中心に進められる。

◇入谷で炭焼き小屋の昼火事発生(5日)

◇志高登校坂下に仮設運動場が完成。志津川市街地の区画整備事業の飛島JVが「健康づくりの場として」と3km<sup>2</sup>を整地した。来年から嵩上げが始まるので、今年限りの使用となる。

◇「クマ目撃」。戸倉合羽沢地区内で、国道398号をクマが横断しているのを新聞配達者が見つけた(7日)

◇気仙沼市5月末の人口と世帯数…  
人口 67,889人(−29人)  
世帯数 25,976(+14)

南三陸町6月末の人口と世帯数…  
人口 14,370人(−71人)  
世帯数 4,692(−30)

◇入札不調が資材・労働費の高騰があり、その回避へ新方式で効果が上がっている。資材高騰の一部を町が負担する。県の基準に基づく。

◆気仙沼市の新市立病院が29年11月開院へ。事業費は35億円増となり総額245億円となった。増額分は市の起債で

対応する。

◇県内の高齢化率が発表され、南三陸町は30.5%で7番目となった。1番は七ヶ宿で44.6%、気仙沼市は5番目で33.1%だった。そして一人暮らしの割合も震災後上昇している。

◇宮城県警柔道・剣道大会で南三陸署は剣道の部で優勝した。職務の合間に町内の中学生への剣道指導もしている。



◇27年秋の開校を予定する戸倉小学校の建設に15億円を計上。

◇南三陸町では、災害公営住宅の屋根を民間に貸し出す。太陽光発電を導入し、民間に貸し出すことで、維持費を抑える。入谷・名足・伊里前・戸倉・柊沢の5ヶ所の活用を決定した。

◆気仙沼市の災害公営住宅は合計で2158戸を予定し、今後最長で1年遅れの住宅もある。予定では、27年10月～28年3月から10月を入居予定し、最も遅いものでは気仙沼駅前で29年5月としている。

◇町内の応急仮設2ヶ所14戸を8月に解体へ。

◇南三陸町まちづくり条例制定へ。毎月11日を「安全安心の日」に。

◇南三陸町八幡川右岸の復興祈念公園の整備について、規模が大き過ぎるとの国の判断で採択が得られず24haからの縮小を求められている。縮小なる事で、土地の買い上げから外れる地権者もでてくる。地権者は150人～200人にのぼる。

◆気仙沼市への復興交付金が見された。水産加工に満額101億円と向洋高校遺構調査に4千万円が認められたが、防災公園の一部が認められなかった。

◇南三陸町「入谷Yes工房」制作のオクトパス君などのグッズ販売が再なる拡大をしている。商品も30種品目まで充実し、新ブランド商品「TACORON」が運氣アップのグッズとして好評だ。当初3人でスタートしたが、現在は22人と多くの雇用も生んでいる。



◇南三陸署は住居侵入で町内男性(57才)を逮捕した。

◇歌津伊里前地区の市街地再生の用地測量調査設計等委託料として、7000万円

を予算措置した。

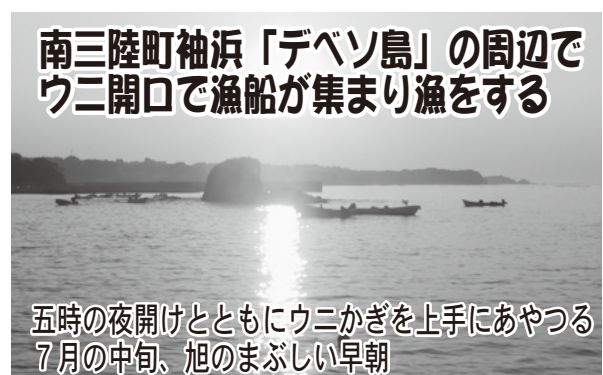
◆気仙沼市で認知症高齢者が3300人いて、行方不明者はいない事を市議会の一般質問で当局が公表した。

◇南三陸町で建設予定の災害公営住宅の入居者の4割が65歳以上だったことが入居意向調査でわかった。介護事業者を入れる「福祉モール」の設置や、高齢者に配慮した災害公営住宅への福祉施設の併設を検討する事とした。

◇町内8地区の入居希望1523人のうち65歳以上が551人で全体の36.2%、志津川市街地地区は364人で35%を占める。

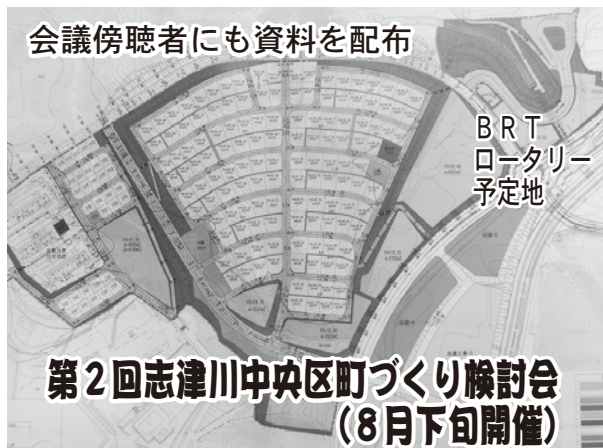
◇南三陸町で8月30日の1時30分から吉川精一さん(元NHKのど自慢司会)の、「吉川精一軒先のど自慢」が福興市場で開催される。

◇7月14日「(仮)南三陸病院・総合ケアセンター」着工式。現在の病院・役場向いの高台へ整備され、来年秋の完成を予定している。



◇南三陸町職員の戸倉公民館の2人も特殊公務災害に認定される。1人は地震後に水門の閉鎖を、もう1人は避難所設営の職務にあたっていた。「高い危険性があった」と認定された。

◇南三陸町の意向調査の中で、JR気仙沼線の鉄路再開を望む声が半数を占めた。また、BRTは高齢者の貴重な足と住民は評価している。



◆気仙沼で不動産詐欺未遂発生。「原野が1坪2万円」、被災住民に注意を呼び掛けている。

◇南三陸産材が茨城に！被災地の復興支援として茨城の生協13万人の「パルシステム茨城」が、日立市内に交流施設「日立運営館」の建設に南三陸産の木材を使用する。6月28日に関係者が出荷式を行った。

◇南三陸町野球協会が「甲子園目指しがんばって」と志津川高校にボールを寄贈した。

ホームページ作成アルバイト求む！(時給1000円)  
志津川広報センター 46-3069